2021年度第1回理事会議事録

1. 日時：２０２１年5月２９日（土） １３：３０～
2. 場所：オンライン会議（Zoom）
3. 出席者（テレビ会議による出席）：

理事：総数26名中

松丸喜一郎会長　田村恒彦副会長　袴田登喜造副会長兼専務理事
岸髙清常務理事　溝部政司常務理事　永谷喜一郎常務理事
大野明敏常務理事　鍵山博常務理事　横山幸子常務理事
三木容子常務理事　平井宏治理事 佐橋朋木理事　源洋子理事
成山悟史理事　寺澤良悦理事　田中僚一郎理事　高橋信吾理事
田口亜希理事　松島愛理事　横沢聡理事　山下晃弘理事
五十嵐治人理事

以上出席22名

監事：総数2名中　石崎和男　香西俊輔　以上出席2名

4. 議事録署名人：松丸会長、田村副会長、袴田副会長、石崎監事、香西監事
5. 袴田専務理事が13時30分に理事22名出席で成立するとの宣言をした。
6. 議長：代表理事　松丸喜一郎

藤井彌事務局長が点呼をとり、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に　他の出席者に伝わり、一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明ができる状態となっていることが確認されて議案の審議に入った。

会長挨拶

コロナウィルスの変異株が出現し、感染力が増し、若年者にも感染し、重症度も増していると言われている。この緊急事態宣言下においては、協会主催の競技会は全て中止及び延期と決めている。加盟団体主催の競技会は、昨年ガイドラインを遵守して感染がおよばないようにして注意していただきたい。オリンピックについて報道されているなか、中央競技団体としては粛々と代表選手の強化、競技会の運営準備を進めていく。審議事項が多いが、みなさんのご協力を頂きたい。

＜審議事項＞

1. 定時社員総会開催案

袴田専務理事より、資料1にもとづいて案が説明された。
昨年同様、オンラインで視聴できるようにする。
第4号議案は、「理事選任の件」を「理事監事選任の件」と訂正する。
ガバナンスコード自己説明の審査項目22に従い、役職員向けのコンプライアンス教育を行う。当日、JOCの講師の方にインテグリティ講習をしていただく。
議長が諮ったところ全員異議無く、定時社員総会開催案について資料1のとおり承認した。

2. 定款の一部変更案
袴田専務理事より、資料２にもとづいて案が説明された。
岸髙常務理事より、理事会の招集を電子メールでも行えるようにするとの事だが、総会の招集にも電子メール可と記載されている、との指摘があった。
藤井彌事務局長より、定款案では理事会も総会も電子メールで招集出来るように変更しているが、冒頭の記載の通り、総会は当面書面による招集を継続する、と回答した。
議長が諮ったところ全員異議無く、定款の一部変更案について資料２のとおり承認した。

3. 2020 年度事業報告案
袴田専務理事より、資料３にもとづいて案が説明された。
冒頭部分の「はじめに」は総会資料配布までに完成させる予定。
通報相談窓口、倫理委員会、ガバナンスコードの審査をうけてホームページに自己説明を掲載したことを追記する。
2021 年５月にガバナンスコード適合の通知をうけたが、これは 2021 年度の報告とする。
議長が諮ったところ全員異議無く、2020 年度事業報告案について資料３のとおり承認した。

4. 2020 年度収支決算書案
袴田専務理事より、資料４にもとづいて案が説明された。
一部の科目で 600 円少なくなるところと 600 円増える所があるが、総額はかわらず、総会までには修正する。
2020 年度はコロナ禍の影響により各事業の大幅な縮小を余儀なくされ、規模としては 2019 年度に比べて事業規模は 45%減という環境となったが、スポンサーと会員各位の支援と協力により、黒字決算となった。
余剰金は、収入面で厳しくなるライフル射撃の普及・選手育成など協会の必要な投資財権を確保するための基金として積み立てる。
議長が諮ったところ全員異議無く、2020 年度収支決算書案について資料４のとおり承認した。

5. 総会議案正会員の変更について
袴田専務理事より、資料２０にもとづいて案が説明された。
溝部政司氏は、記載は誤植である。
柳田勝氏は、理事退任なので記載しない。
理事監事の候補者選定は、役員候補者選考委員会に一任いただきたい。
議長が諮ったところ全員異議無く、総会議案正会員の変更について資料２０のとおり承認した。
理事監事の候補案は、確定していないため、総会前に理事監事候補案を知らせる。

6. 2021 年度会長表彰案
袴田専務理事より、資料５にもとづいて案が説明された。
会長表彰候補の推薦が１名、福井県から宮浦さんの推薦書が来ている。
感謝状については、先日現役を引退した松田知幸選手に贈る予定である。
議長が諮ったところ全員異議無く、2021 年度会長表彰案について資料５のとおり承認した。

7. 中長期プロジェクト
袴田専務理事より、資料２１にもとづいて案が説明された。
世界を視野に入れた新たな取り組みである。
当協会が継続的に事業を行うためには、会員獲得とともにオリンピック種目であることが重要な点である。
オリンピックアジェンダ 2020+5 が IOC 総会で採択され、具体的な項目のなかで以下の３項目がある。
シミュレーション形式での競技を１つの種別として確立。
身体運動を伴うバーチャルスポーツを加える。
競技コミュニティとビデオゲームコミュニティのパトナーシップを支援する。
IOC の方向性に対して、当協会も同じ取り組みをすることが、会員確保とオリンピック種目の存続につながる。
昭和 50 年からビームの大会を行っており、弾の出ないシューティングスポーツ先進国としてイニシアチブを取っていく。
プロジェクト推進のために専門家を公募してスタッフに加え、マーケティングの豊富な知見を有する外部理事を招聘し、いろいろなご意見をいただいて進めていく。
プロジェクトで予算を必要とするような事が具体化したら理事会に諮りながら進める。
議長が諮ったところ全員異議無く、中長期プロジェクトについて資料２１のとおり承認した。

8. 本部および委員会の運営に関する規程の改定案
松丸会長より、資料６にもとづいて案が説明された。
協会の財政基盤を自立させて強固にするため、マーケティングおよび広報活動を積極的に展開し事業収益の新たな柱としてスポンサー収入等の収入増加をはかる必要がある。
その重要性を鑑みて、マーケティング委員会を新設する。
総務委員会の中にあったスポンサーシップ業務を削除し、マーケティング委員会へ加える。
石崎監事より、将来的には、広報もマーケティング委員会にて取り扱ったら良いのではないか、との質問があった。
松丸会長より、調整しながらマーケティング委員会に取り入れたい、との回答があった。
議長が諮ったところ全員異議無く、本部および委員会の運営に関する規程の改定案について資料６のとおり承認した。

9. 東京 2020 ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ競技大会日本代表選手の内定及び派遣について（案）
田村選手強化委員長より、資料２２にもとづいて案が説明された。
女子 10m エアライフルは、選考会第１位の中口選手と女子 50m ライフルで既に内定していて指

定記録会で基準点を達成した平田選手。
男子 10m エアライフルは、選考会第１位の岡田選手と内定決定戦勝者の松本選手。
男子 50m ライフルは、松本選手が指定記録会で基準点に達しなかったため、再度選考会を行い、岡田選手が第１位になった。岡田選手は男子 10m エアライフルでも第１位だったため、男子 10m 第２位の島田選手と男子 50m 第２位の松本選手で内定決定戦を行った。競技会後検査において島田選手が失格となり、抗議がなかったため、ルール通り確定し、松本選手に決定した。
女子 10m エアピストルは、選考会第１位の山田選手と内定決定戦で勝者となった佐々木選手。
女子 25m ピストルは、選考会第１位の山田選手と佐々木選手。
男子 10m エアピストルは、選考会第１位の森川選手が MQS 未獲得だったためクロアチアのヨーロッパ選手へ派遣して MQS 獲得を試みたが、獲得できなかった。よって、選考会第２位の堀水選手が繰り上がった。
男子 25m ラピットファイアピストルは、選考会第１位の吉岡選手である。
議長が諮ったところ全員異議無く、東京 2020 ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ競技大会日本代表選手の内定及び派遣について（案）を資料２２のとおり承認した。

10. 緊急事態宣言特例措置
袴田専務理事より、資料２３にもとづいて案が説明され、以下の補足・訂正がなされた。
表題の「検定料」を「有効期間」に変更する。
2021 年度に再公認を受けるものは、公認期間を３年間ではなく、４年間とする。
2024 年度までに全ての電子標的は、公認を３年間ではなく、４年間とする。
2021 年度の新規は、資料には適用しないと書いてあるが、今後の感染症の状況をみて判断する。
議長が諮ったところ全員異議無く、緊急事態宣言特例措置について資料２３に訂正を反映する形で承認した。

11. NRAJ 認定コーチ制度要項の改定
永谷普及生涯スポーツ委員長より、資料１９にもとづいて案が説明された。
議長が諮ったところ全員異議無く、NRAJ 認定コーチ制度要項の改定について資料１９のとおり承認した。

12. 2021 年度 育成アスリート指定基準及び海外派遣要綱案
三木ｼﾞｭﾆｱ育成委員長より、資料１０にもとづいて案が説明され、一部の訂正がなされた。説明資料の一部が古い版になっているとの訂正がなされた。
表題は、「2021 年度 育成アスリート・ナショナルタレント指定基準及び海外派遣要綱案」である。
（２）ナショナルタレント＜ライフル＞＜ピストル＞ を削除する。
カデットの AR10m40 発の点数が 60 発と同じになっており、40 発の同じ段級の点数と差し替える。
アスリートパスウェイの図が古い版となっている。
議長が諮ったところ全員異議無く、2021 年度 育成アスリート指定基準及び海外派遣要綱案について資料１０に訂正を反映する形で承認した。

13. 国体における 50m 射座数の削減について
鍵山国体委員長より、資料７にもとづいて案が説明された。
松丸会長より、国体規模のものを常設として作った場合は維持が困難であり、射座数を減らして練習射撃場として維持ができる常設射撃場を開催県に設置することを優先として考えたという理解で良いか、との質問があった。
鍵山国体委員長より、その通りである、との回答があった。
議長が諮ったところ全員異議無く、国体における 50m 射座数の削減について資料７のとおり承認した。

14. 三重国体中央派遣役員案について
鍵山国体委員長より、資料８にもとづいて案が説明された。
三重は東日本だが、西日本に隣接しているため近畿ブロックにも声をかけて出役を依頼している。
議長が諮ったところ全員異議無く、三重国体中央派遣役員案について資料８のとおり承認した。

15. 栃木国体リハ大会中央派遣役員案について
鍵山国体委員長より、資料９にもとづいて案が説明された。
議長が諮ったところ全員異議無く、栃木国体リハ大会中央派遣役員案について資料９のとおり承認した。

16. ライフル射撃場の公認に関する規程改定案について
溝部競技運営委員長より、資料１１が示され、改定の趣旨は調査員の日当に関する規定の明確化である、との説明がされた。これまでは具体的にかかれておらず、行政とのやりとりを踏まえて明文化が必要だと判断したため。
議長が諮ったところ全員異議無く、ライフル射撃場の公認に関する規程改定案について資料１１のとおり承認した。

17. 競技会報告書の提出期限に関する規程の改定
溝部競技運営委員長より、資料１２にもとづいて案が説明された。
現在ランキングの反映に時間がかかっており、これを改善するために記録の提出期限の短縮と提出様式の指定を行いたい、との説明がなされた。
議長が諮ったところ全員異議無く、競技会報告書の提出期限に関する規程の改定について資料１２のとおり承認した。

18. 公認競技会の格付け規定の改定
溝部競技運営委員長より、資料１３にもとづいて案が説明された。
議長が諮ったところ全員異議無く、公認競技会の格付け規定の改定について資料１３のとおり承認した。

19. 公認審判員規程の改定
溝部競技運営委員長より、資料１４にもとづいて案が説明された。
現状はルールが頻繁にかわっており、申請された審判員を公認する際に、昔のルールしか知らない人を公認してしまうことを防ぐため、との補足がなされた。
松丸会長より、認定コーチは試験制度を導入しているが、審判も今後試験制度を導入するか、との質問があった。
溝部競技運営委員長より、検討しているが、時間がかかるので、今後の課題としたい、との回答があった。
議長が諮ったところ全員異議無く、公認審判員規程の改定について資料１４のとおり承認した。

20. BR/BP のミックスチーム競技時間について
溝部競技運営委員長より、資料１５にもとづいて案が示され、鍵山常務理事が九州で試したところ、短縮された時間で問題なく実施できた、との説明がされた。
鍵山常務理事より、BR はミックスのソフトができておらず、時間がかかっている。観るものが楽しめるようにソフトを開発してスピードアップが必要ではないか、同開発は、日ラが負担すべきではないか、との発言がなされた。
松丸会長より、財務専門部会による予算化も含めて、検討するとの回答がなされた。
議長が諮ったところ全員異議無く、BR/BP のミックスチーム競技時間について資料１５のとおり承認した。

21. 公認審判員の公認
溝部競技運営委員長より、資料１６に基づいて案が説明された。
議長が諮ったところ全員異議無く、公認審判員の公認について資料１６のとおり承認した。

22. 記録の公認
溝部競技運営委員長より、テストイベント（Ready Steady Tokyo）は、IF 役員も含めた体制であり、国際試合に準じ、日本記録は公認される、との説明がなされた。
源理事より、資料１７に基づいて案が説明された。
佐橋理事より、関東学生は G4 ではないか、との質問がなされた。袴田専務理事より、G3+として申請済みであるとの回答がなされた。
議長が諮ったところ全員異議無く、記録の公認について資料１７のとおり承認した。

23. 射撃場の公認
溝部競技運営委員長より、資料１８に基づいて案が説明された。
田中僚一郎理事より、資料１８にある世田谷区の電子標的は２６的ではなく、６的である、との訂正がなされた。
議長が諮ったところ全員異議無く、射撃場の公認について資料１８のとおり承認した。

＜報告事項＞
1. 委員会報告：
1) 総務委員会
袴田専務理事より、SB3G 標的特別価格販売実績は 1 件 5,000 枚であった、との報告がなされた。
2) 推薦委員会報告
- 審査結果報告
大野推薦委員長より、資料２４にもとづいて報告がなされた。
- AP 推薦タスクフォースの編成
大野推薦委員長より、複雑化したピストル推薦全体を本来の推薦要項に則ってシンプル化を検討するタスクフォースを設置する、との報告がなされた。
- 競技会成績の報告のお願い（G3, G4）
大野推薦委員長より、資料２５にもとづき、ニチラネットでの自動判定を推進するため G3, G4 の競技会実績報告提出のお願いがなされた。
3) 国体委員会報告
4) 2020 東京オリパラ準備運営本部報告
袴田本部長より会場の様子を示した映像の紹介がなされた。
5) 選手強化委員会報告
田村委員長より、以下の報告とお願いがなされた。
コロナ禍で選手およびスタッフ一同、感染拡大予防に注意して活動を行なっている。
東京オリンピックに向けて選手の活動に注目していただき、ご支援いただきたい。
6) ジュニア育成委員会報告
三木委員長より、JOC エリートアカデミーに新しい選手が加入した報告があり、新しく加入した山田選手本人から会議の参加者挨拶を行った。
7) 競技運営委員会報告
溝部委員長より、以下の報告が行われた。
テストイベントについて出役した各 NTO からの意見を現在取りまとめている。
多くの課題があり、組織委員会に伝えながら会場作りをすすめていく。致命的なのは、ファイナルホールの 10m 射場の標的側が暗すぎるため、選手の照準に支障をきたしている事。本番前に修正し、検証したい。
ワンタイムオンリー検査の講習をオンラインで行いたい。詳細は、6 月初旬に案内したい。
8) 普及・生涯スポーツ委員会
特になし。
9) その他
松丸会長より、藤井優名誉副会長が叙勲推薦候補としてスポーツ協会からの通知をうけた事が報告された。これから審査があり、叙勲が決定する。

2. 会務報告

1) 7月の理事会と壮行会の日程変更のお知らせ

藤井彌事務局長より、下記の通り説明がなされた。

7月理事会　　7月11日（日）

壮行会　　同日

2) 新宿区版ふるさと納税のお願い

松丸会長より、新宿区版ふるさと納税についての納税のご案内とご協力願いがなされた。

納税した7割が指定された中央競技団体へ寄付される。

当協会あてにふるさと納税をして戴いた方は、ご本人の了解を頂戴した上でお名前を年度ごとに報告したい。

3) 訃報

藤井彌事務局長より、下記の通り説明がなされた。

川崎豊　元副会長　　5月12日　　享年80歳

4) その他

● 事務局人事

袴田専務理事より、倉田憲児、佐藤遥の両名が3月31日に退職し、谷川諒が新たに入局した、との報告がなされた。

● 7月理事会と壮行会に関する質問と要望

永谷常務理事より、7月理事会と壮行会の時間についての質問がなされた。藤井彌事務局長より、理事会は１３：３０より開始し、その後壮行会へ続く予定だが、後日正式に案内を出す、との回答がなされた。

田口理事より、7月理事会と壮行会にパラリンピックのアスリートも合同参加予定なのか、との質問がなされた。松丸会長より、当初の予定通り合同で行う、との回答がなされた。

鍵山常務理事より、遠隔地のZoomによるオンライン参加も可能にしてほしい、との要望が出された。松丸会長および藤井事務局長より、オンライン参加もできるように対応するとの回答がなされた。

● JOC理事の退任の次期候補者

松丸会長より、次の通り報告がなされた。

ガバナンスコードの適用により、6月25日をもって松丸会長が任期満了によりJOC副会長を退任する。

後任として、田口理事を推挙しており、6月25日の評議会で選考が行われる。

16時54分に議長の松丸会長が閉会を宣言した。

2021年5月27日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長、代表理事（会長）松　丸　喜　一　郎　　印

代表理事　　田　村　恒　彦　　印

代表理事　　袴　田　登　喜　造　　印

監事　　石　崎　和　男　　印

監事　　香　西　俊　輔　　印